【大学礼拝週報】2023 年度 第 6 号（前学期第 6 号）

2023 年 5 月 23 日（火）午前 10 時 40 分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

【2023 年度春期キリスト教教育強調週間】

《礼 拝 順 序》

司　　式　小林昭博（宗　教　主　任）
奏　　楽　佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導　相原晴伴（循環農学類教授）

前　　奏	神をほめまつらん、祝しまつらん（J.C.バッハ作曲）
讃 美 歌	讃美歌２１ 412 番（昔 主イエスの）
聖　　書	ガラテヤの信徒への手紙３章 26–29 節
祈　　り	（司式者）
奨　　励	「平和の霊を獲得する」　エフレム後藤悠太司祭
祈　　り	（札幌ハリストス正教会司祭）
讃 美 歌	讃美歌２１ 560 番（主イエスにおいては）
報　　告	
後　　奏	来ませ聖霊、主なる神（パッヘルベル作曲）

【本日の聖書】ガラテヤの信徒への手紙３章 26–29 節

26 あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。27 洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。28 そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。29 あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

【奨励】「平和の霊を獲得する」

「正教会」という言葉そのものが皆さんにとって馴染みの薄いものなのではないかと思います。人となった神であるイエス・キリストは自ら十字架にかかり死なれ、そして3日目に復活しました。キリストの弟子たちはこ

の復活を目撃し、本当にイエスが復活したことを信じ、そして自分達自身がこの「よみがえりのいのち」を生き始めました。古い自分は死に、新たな「いのち」を生き始めたのです。正教会とは何なのかと問われれば、正教会とはまず、この輝かしい「いのち」そのものです。聖書も、教義も、複雑な礼拝や祈祷文も、イコン（聖像）もこの「いのち」の現れであり、輝かしい喜びの溢れに他なりません。私たち正教徒は教会において「よみがえりのいのち」を体験します。

【講師紹介】エフレム後藤悠太（えふれむ・ごとう・ゆうた）先生

1978年旭川市生まれ。2001年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。北海道の高校で音楽教諭になって音楽を教える。大学時代からよく聴いていたエストニアの正教徒である作曲家のアルヴォ・ペルトの音楽をきっかけとして、正教会に通うようになり受洗。2012年東京正教神学院卒業。日本ハリストス正教会神戸ハリストス正教会に伝教者として赴任。2013年11月輔祭叙聖。2014年2月司祭叙聖。2019年日本ハリストス正教会札幌ハリストス正教会司祭着任。

【キリスト教教育強調週間】

キリスト教主義大学はキリスト教を基礎に置いて教育に当たっており、どのキリスト教主義大学でも年に数回にわたって強調週間を設けて、学生と教職員が教育の根幹にあるキリスト教教育について見つめ直す機会を設けています。本学ではキリスト教の宗教的・社会的・文化的な多様性や広がりからのアプローチを心がけ、春と秋に強調週間を実施しています。

現在も続くロシアのウクライナ侵攻という現実の最中で、ロシア正教会やウクライナ正教会が属する正教会（東方教会）や東欧世界についてわたしたちが殆ど何も知らないことに気づかされました。今回の強調週間では、エフレム後藤悠太先生を通して、ロシアとウクライの歴史の中心にある正教会の歴史、文化、儀礼、教理、イコン（聖像）などに触れ、両国を身近に感じ、両国の平和を願う活動を継続していきたいと願っています。

【次回の大学礼拝】2023 年 5 月 30 日（火）10 時 40 分

聖書：ヨハネによる福音書 2 章 18–22 節

奨励：「生命が息づくところに」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝】2023 年 5 月 16 日（火）

学生：169 名　教職員ほか：9 名　合計：178 名